

NGU NEWS ISSN 0915-8901

# ***COSMORAMA***

**57**  
2000  
MARCH



彫刻「未来に向けて」

未来に向けて  
2000年3月号  
小北 静賢  
1999年 名古屋芸術協会  
1000年 12月



Culture & Human Resources

NAGOYA GAKUIN UNIVERSITY

CONTENTS

**Interview**  
I-Clubに聞く..... 1

**Topics**  
キャンパスは美術館  
彫刻設置計画について  
小池郁男..... 2  
「NGU EXPO 2005」  
ワークショップ報告 小林甲一..... 3

**NGU Focus**  
これからの本学における就職等進路指導  
主な就職内定企業..... 4

**Essay**  
シリーズ 「コーシンが行く瀬戸の町」  
窯垣の小径をたどれば  
木村光伸..... 6  
シリーズ エッセイ  
辰年に思う  
山本淑雄..... 7

**NGU Focus**  
NGUのAO入試  
持田辰郎..... 8

**Campus Now**  
ゼミナール訪問  
「今仁ゼミ」  
今仁生美..... 9  
サークル紹介  
ワンダーフォーゲル部 ..... 9  
「情報教育」から「教育の情報化」へ  
児島完二... 10  
教育振興基金 ご寄付芳名  
1999年度課外活動紹介  
1999年度本学の動き..... 11

**Information**  
学長に木村光伸教授 ..... 12  
学長表彰で10名が受賞  
中村至朗教授が最終講義  
2000年度資格講座の開講について  
バリアフリー工事がすすんでいます  
父母懇談会日程決まる  
行事予定 4～5月

COSMORAMA(コズモラマ)の由来  
「宇宙」や「世界」を表わすCOSMOS(コスモス)とPANORAMA(パノラマ)との合成語。19世紀にロンドンの街角でしばしば行なわれた世界各地の様子をのぞきみせるショーの名称として使われたのが最初。世界の動きに興味を持ち、大きな視点に立ってそれを見渡すことができるようにとNGU NEWSの愛称に採用しました。

「I-Club(アイ・クラブ)とはどのようなグループですか？」

「I-Club」は、生活や勉学の面で日本に不慣れた留学生が、少しでも早く日本の文化・社会に溶け込んでいけるようサポート活動を行っている本学学生のボランティア・チーターの団体です。

外国語学部・留学生別科開設と同時に設置された国際交流センターのもとに当時のセンタースタッフの呼びかけで誕生したのが始まりです。当時は「I-Club」という名称はなく、留学生チーターのボランティア活動グループとしてMatshidaメイトシブ(メイト)愛称を持っていました。



白川郷でわらじ作り

設立当初から他のクラブ活動とは多少異なり、国際交流センターと留学生別科の運営活動に直接協力しながら学生の自主的なボランティア団体として現在まで活動してきました。

具体的な活動内容はどのようになっていますか？

年間活動は、4月の新入部員勧誘に始まり、春と秋

には留学生の入学の時期に合わせて、オリエンテーションを兼ねた名古屋市内の案内(フィールド・トリップ)を行っています。具体的には名古屋市内街栄・大須周辺を1日使った散策となっています。

この名古屋市内見学は、実際の生活に関連する銀行や生活用品が購入できる場所などを教えることのできる良い機会になっていると思います。

10月後半には、ハロウィンパーティーや大学祭、また留学生の帰国時期に合わせてフェアウェルさよならパーティーというように1年を通してイベントを行っています。

日常的には、授業の空き時間や授業後にセミナーハウスを訪ねて宿題や勉強の手伝い、また、日本語でお喋りをすることも重要な役割のひとつになっています。休みの日に一緒に買い物に行く人もいますし、時には日本料理を作ったりもしています。

各国から様々な文化を持った留學生が集まっていますが、留學生が日本の生活様式に戸惑うことも多いと思うのですが？

どうして靴を脱いで上がるんだとか、座敷で奥の方に目上の人が座るのはなぜかといった質問をされると困りますね。課外授業で金沢にフィールドトリップに行った時にも、和式トイレやお風呂での湯船と洗い場の使い方に困るといった例もありました。他にも日本語を教えるという「どうしてこうなるの？」と質問された時に答えられなかったりすることもあります。



留學生とのバーベキュー

もちろん「こちらから一方的に留學生に日本文化を強要するのではなく、彼らとの日常的な交流を通して、同じ大学で学ぶ友人として日本文化の良いところも悪いところもまとめて吸収してもらえよう努力しています。

留學生と接する上で難しいと感じられるのはどのような点でしょうか？

やはり言葉のギャップが一番大きいですね。留學生は皆日本でたくさんの方と友達を作りたいと思っているのですが、留學生同士ではどうしても母国語で話してしまいがちです。ですからセミナーハウスにも多くの日本人を呼んで日本にホームステイに来たような環境を作っていくことができれば、留學生も言葉のギャップを取り払う





# Interview

## I-Club



本学の留学生別科には、毎年春と秋に協定校を中心として様々な国からの留学生が入学してきます。

彼らの日本での学生生活をボランティアで支えるI-Clubのメンバーにお話をうかがいました。



この活動を通して何か得られたものはありますか？  
留学生との異文化交流を通して日本人の私達が学ぶことは私達が彼らに伝えられること以上にほかに多くこの活動に参加することにより日本語も含めた自国の文化や社会についての知識不足を痛感させられると同時にそれらを学ぶことの大切さを教えられます。断片的ではあるにしても、他国の文化について知ることで今までよりは少し相手の立場に立ちて人を理解し、

自分自身のことでも客観的に判断できるようになった気がします。  
日本の大学生について、留学生はどのように感じているのですか？  
留学生は皆、それぞれ目的を持って日本へ勉強に来ています。日本の学生は見出しように大学生活を送っているように見えますが、何のために大学に来ているのか

が理解できないような学生や、大学で勉強に打ち込む姿があまり見られないのを不思議に思うようです。他の国では、日本人は真面目で良く働くとイメージがあるせいか、そのような点にギャップを感じているのかもかもしれませんね。  
日本人である自分を振り返ってみても、単位を取得することだけが勉強の目的になってしまっているのではないかと感じています。  
大学への要望や他の学生へのメッセージなどありますか？  
「I-Club」は経済的にも精神的にもボランティア精神が求められるクラブだと思います。また、また活動やイベントについては国際交流センターの支援がありますが、サークルやクラブのように部費がないので、活動内容がある程度限られてきます。国際交流センターとのかかわりは、クラブとしては良い面と悪い面があるようにも思います。



国際セミナーハウス

日常、留学生と接する機会は少ないと思いますが、留学生は人でも多く日本人の友達が欲しいと思っていますので「I-Club」のメンバーと一緒にセミナーハウスを訪ねたり、留学生を励ます会、その他のパーティーにより多くの学生が参加してもらうことができればうれしく思います。留学生の存在をより身近なものにしていくためには、まず私達「I-Club」の存在が学生にとって身近なものになるような努力もしていかなければならないと考えています。「I-Club」の活動に関心を持たれた方は、4～5月にかけて行う説明会・勧誘は年1回(1)に参加してみてください。

インタビューに協力いただいたのは…  
I-Club代表 石黒 千亜紀さん(経済学部3年)  
長谷川 理佐さん(外国語学部1年)でした。  
また、取材ならびに記事作成にあたっては本学新聞会の全面的な協力をいただきました。





# キャンパスは美術館

## 彫刻設置計画について

愛知県立芸術大学教授

小池 郁男

名古屋学院大学構内への彫刻作品設置計画のため大学を訪れたのは1998年の夏の暑い日であった。上品野交差点を左に折れ、まもなく急な坂道となるが、これを一気に上りきると左手に鉄骨で構成された軽快な門標とその奥に続く桜並木とがトンネル状に一体化して見える正門が目飛び込んできた。起伏に富んだ大学のキャンパスは、その建物や植栽

によって統感ある快適な空間として構成されていることに大変驚いたものである。この素晴らしい空間にどのような作品を設置すべきか芸大彫刻専攻6名のスタッフは半年以上にわたり検討した。

まず、作品を設置する空間を3つのゾーンに分け、図面参照し、それぞれの環境と空間認識について検討した。

Aゾーンは東門から希望館に至る独立した空間で、しかも、360度視界が良好、大学を象徴するモニュメントを設置する空間として最もふさわしい場所と認識し、このゾーンを「礎の空間」と呼ぶことにした。

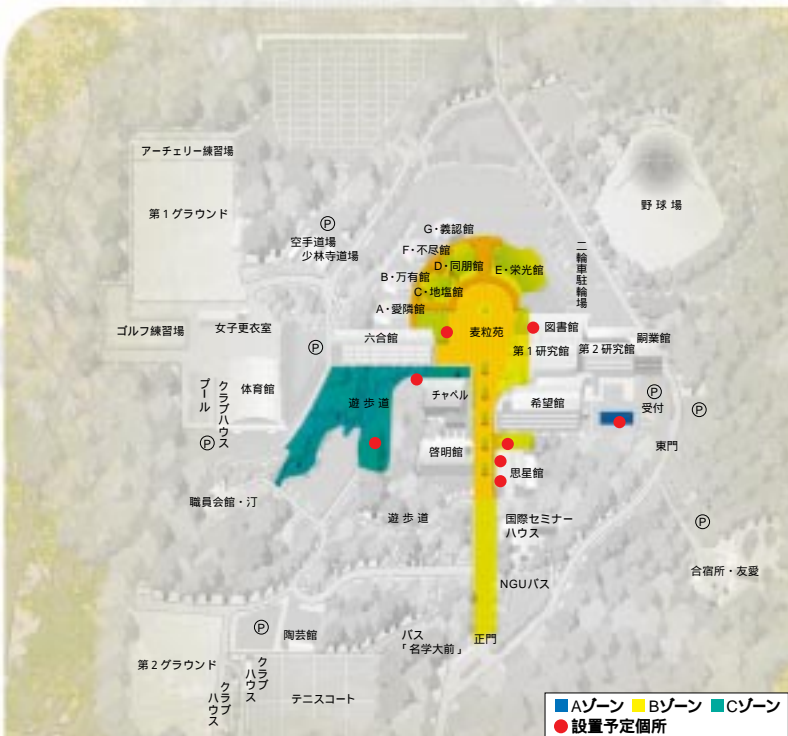
Bゾーンは正面玄関から麦粒苑までの空間、大学全体を構成する上で最も重要な位置である。建物と植栽のバランスが良く、多様なイベントなども開かれ、研究から休息まで大学の活動はこの空間を介して行われている。したがって、人と人との交流の場と位置付け、友好の空間とした。

Cゾーンは幽玄池から六合館南斜面とチャペルの北側に至る遊歩道を利用した空間。ここは緑と水に恵まれた静かな場所であるが、池付近を除き傾斜地が多いため、風などを利用した軽量の作品に適すると考えられる。ここは、個人、グループなどのパフォーマンスができる空間を想定し、遊の空間とした。

さて、昨年12月、希望館前に設置させていただいた作品「未来に向けて」の主旨や制作経過など若干説明したい。この礎の空間へはスタッフから幾つものアイデアスケッチが出され、全員で検討を重ねた結果、最もこの空間に適合するとして、未来へ向けてが最終候補となった。

この作品は「という万物の構成要素と考えられる単純な形を礎の空間を意識しながら構成し、この学び舎から未来に向けて飛翔する若者の気迫に満ちた心情を大学の建物のフォルムに適合させながらシンボリックに造形化してみた。

三個の脚で支えられた空中に浮かぶ中心の石は、外側を覆う三角形で構成したステンレスのフォルムによって不安定さが打ち消され、むしろ全体的に軽やかで、明るい感じが表現できたと思う。石は白黒の御影石を使用し、台座も含め落ち着きのある色調に心がけた。心に残る作品となれば幸いである。





# NGU EXPO2005 公開ワークショップ報告

小林 甲一  
(経済学部教授)

1998年3月、「2005年国際博覧会が地域に及ぼす効果」を調査・研究するために、本学産業科学研究所に設けられたEXPO2005プロジェクト研究は、1999年5月には研究報告書第1号を発刊するなど、本年度も着実な活動を続けております。おかげさまで博覧会協会や愛知県、瀬戸市・長久手町など地域の自治体、地元の産業界、および市民の方々にも広く認知されてきました。今回、こうした研究成果を広く社会に公表し、地域の人びとや本学の学生とともにEXPO2005をテーマとしたティスカッションをするために、昨年の11月から今年の1月にかけて3回連続の公開ワークショップを開催しました。

## NGU EXPO2005 プロジェクト研究

### 地域からの再考

#### EXPO2005

#### 公開ワークショップ

- 第1回 地域経済
- 第2回 地域政策
- 第3回 博覧会計画

テーマは、「地球からの再考 EXPO2005」としました。既に存在しているように、EXPO2005は、開催決定後も今日まで賛否両論や紆余曲折があり、ついに会場を「海上の森」と「青少年公園」に広げて開催されることになりました。また、会場基本計画の決定を目前にしても、さまざまな論議が繰り返されていきます。依然として不確実な部分も多いですが、それが確定しますといよいよ準備作業や関連事業が本格的にスタートするはずです。そこで、この時点で、ふたたび「EXPO2005と関連事業が、本学の立地する瀬戸市やその周辺地域にどのような効果を及ぼすか」

を考え直したいと思つたのです。

第1回目は本学商学部助教授の三井哲氏金融論に、「万博が地域にもたらす社会・経済効果」と題して、イベントの開催が地域の経済や社会にどのような効果をもたらすのか、EXPO2005がこの地域に及ぼす効果としてどのようなことが期待されるか、などについて講演していただきました。コメンテーターも含めた議論のなかでは、その開催効果を費用・便益の両面から分析し、検討する必要があることや、産業基盤整備と観光の面での経済効果が重要であることなどが強調されました。

第2回目は、(財)地域問題研究所 調査研究部長の村松久美秋氏をお招きして、「交流・共生・自立のまちづくり」をキーワードに、「博覧会よりもまちづくりを」瀬戸市総合計画の課題」という興味深いテーマで講演いただきました。瀬戸市企画課の政策担当の方を含めたティスカッションでは、中心市街地の活性化、市民参加の大切さ、地域のひとりひとり、そして若者に魅力のあるまちづくりなどが話題になりました。フロアリーの学生からも質問や意見が出され、まちづくりや瀬戸のことを見直すよい機会になりました。

第3回目の講演は、「博覧会イメージと瀬戸のまちづくり」と題して本学経済学部教授の木村光伸氏にお願いしました。自然観や地域の視点から、EXPO2005の理念、新しい地球創造「自然の観知」を具体化できるのは、地域型博覧会「のイメージ以外にはないこと、そして、それを瀬戸がしっかりと受け止めて、まちづくりや市民参加をおこなうには何が重要かなどについてお話があった後、

瀬戸のまちづくりの具体的なイメージや瀬戸から発信する市民参加型博覧会のあり方について議論しました。

毎回、150〜200名の方々に参加いただき、新聞各紙でも取り上げていただきました。参加者の半数以上は本学の学生でしたが、オフキャンパスで地域の経済や社会について考えるよい「課外授業」になったようです。なかには熱心にメモをとっている学生もいて、講演やティスカッションを静かに聴いている姿は頼もしくさえありました。

私たちの研究グループは、これからもこうした活動や研究調査の成果公表、また政策提言などを通して、EXPO2005をめぐる動きを見守っていくつもりです。地域や社会に開かれた大学、さらに、学生とともに地域や社会を創造できる大学へ。ぜひ、これからのNGUに注目していただきたいと思つています。





# これからの本学における就職等 進路指導について

## 少数厳選化する採用環境

今年度の就職戦線の特徴は、概括すれば(1)採用活動の不透明性(2)採用活動の短期化(3)採用人数の少数厳選で推移したと言えます。

第一の特徴である採用活動の不透明性とは、業種によっては採用活動の始期、採用内々定時期が不透明であり、多くの業種にわたり例年の横並び的な採用慣行が衰退していく傾向です。企業によっては採用方式も多様化しており、それに伴い採用情報も一転、三転し、明確なスケジュール予測が益々難しくなっています。

第二の特徴は採用期間の短期化です。春・秋採用・通年採用の慣行は大きく崩れ、企業の採用内定は4月から6月にかけてピークを迎えました。そして9月・10月以降の募集企業数は急激に落ち込みました。秋以降の対応を余儀なくされた学生には、大きなダメージを与え、現在もなお就職活動に励んでいる状況です。

第三の特徴は採用人数の少数厳選です。各企業の採用に至る手順の多様化・インターネットによる受付・エントリーシートによる志望動機・自己PR等・論文の事前提出・集団面接・集団討論が実施されるなど、各企業とも採用人選には従来にもまして厳しいハードルを設けています。その他の特徴としては、99年4月1日をもって



て施行された「男女雇用機会均等法」により企業募集要項の採用条件欄に従来の男女別表示が削除されたことです。この結果、女子学生に関する募集、採用の判別がつかず、応募する女子学生にとってはミスマッチ(積極的な女子採用の意思がない企業に応募する)などによる相対的な苦戦が強いられました。

経済不振による景気の停滞は、採用人数の縮小(採用人数が表示されていても途中で採用中止とした企業も相当数あった)となり受験者の絞り込みが徹底され、採用基準は年毎に厳しくなっています。量より質の時代が実感されます。

## 企業の求める人物像

景気が好転せず先行き明るい見通しも出てこない現状では、規模の大小を問わず各企業は社内体制を強化したり、経費の削減に取り組んだりして生き残りのために必死の努力をしています。具体的にはリストラです。例えば不採算部門の併合とか削減・人件費等々の縮小です。こうした社内体制の強化はいさおい新卒採用環境にも大きな影響を及ぼしてあります。

それは新卒採用人員の縮小であり少数精鋭志向する採用方針となっています。結果として量より質を重視する採用方針ですから自社の採用基準をクリアできない受験者には内定をだしません。たとえ人員数が不足しても採用基準(ハードル)を下げないでしょう。学生はこのことをよく自覚して欲しいと思います。

自己の欲求は尊重されねばなりません。いたずらに自己の能力以上の企業に挑戦して大切な就職時期のタイミング(4月～7月)を無駄にするようなことには気をつけて欲しいものです。ここで一般的にいわれる「企業が求める人物像」について記載しておきます。

- 国際感覚に富む(語学力・インターネット・コンピュータを操作できる・世界経済が語れる)
- 人間関係・協調性・忍耐力があり性格が明るい(フィールドワーク・相手の立場に立つて考えることができる)
- ヤル気・体力・バイタリティー・チャレンジ精神)
- 論理的な思考・柔軟な適応能力
- 創造性のある人(何かを作り上げる力)
- 自己責任のとれる人

率直に言えば、右記項目のうち自分が該当するのは、いずれであり、どれほどかという事です。就職試験はこのことを自分自身が認識することは勿論、相手側(企業等々)にも理解していただく最良の機会であると前向きに考えることです。

## 本学の就職指導体制

### 就職ガイダンス

例年3年次の6月初旬から就職ガイダンスを開催し、翌年の1月までに15回以上実施しています。ガイダンスでは、その時々に必要な事柄を説明し、学生の皆さんが就職活動に自然に入っていくよう配慮して計画しています。

2000年度の3年次生向け就職ガイダンスでは、前半期間(10月中旬まで)において社会常識を養つ視点から政治・経済を中心とした





窯垣の小径をたどれば



かつて瀬戸は窯ぐれの街であった。窯ぐれとは本来窯業地における渡り職人を指したが、瀬戸にあつては後に窯業従事者全体を指すようになった。もっとも陶芸家や旦那衆はその範疇外であつたことはもちろんである。低賃金労働に甘んじながらも腕に自信のあつた窯ぐれたちの活気が瀬戸の飲屋街を支えたのも、すでに昔のことになつてしまつた。

江戸時代後期に瀬戸にもたらされた磁器生産技術はその後の瀬戸窯業全体の構造を大きく変えたが現在の洞地区を中心とした帯は今も本業ほんきよつ(の)地であり続けている。

本業とは磁器に対する本業、すなわち瀬戸本来の製法による陶器生産を意味する。洞の山裾に沿つて「窯垣の小径」と呼ばれる静かなプロムナードが緩やかな起伏とともに「流れるように」続いている。平日は訪れる観光客も少なく、すれ違う人もないままにこの小径をたどると、かつて瀬戸が陶

磁器と格闘しながら、それでもひっそりと息づいていたことを想い起こすことができる。瀬戸の街が今のように瀬戸川沿いに集中したのは明治も半ば以降のことであり、それ以前は洞と通称される山間の集落ことが生産地を形成していた。阿木香さんの著した『瀬戸やきもの風土記』(双葉社、1996)によれば瀬戸の窯業技術のなかでも大窯の築窯の技術は、戦国期を通じて築城、築堀の技術として重視されたという。そのなごりが現在の窯垣として過去の技術を伝えてくれているといつことは、単に観光資源がそこにあつたことよりも、もっと大切なことを後世の私たちに伝えていようとする気がある。



製陶所のディスプレイ「見学できます」の案内がある

窯場で使い終えて捨てられるはずのエンゴロやエフタなど窯道具は、窯ぐれの心意気とともに窯垣として再生し、瀬戸の街を飾りつくしている。円と直線の単純な紋様の繰り返し、実に不思議な造形美を醸しだし、瀬戸の庶民の感性を余すところなく露わにしているといつても良いのではないだろうか。瀬戸は実に路地に満ちている。表通りとしてもそれ自体が狭い横町に過ぎないのだが、それを歩はずれて中へはいると人のすれ違いも難しいような小径がゆるやかに左右に揺れ、折れ曲がり



修復された新しい窯垣

ながらどこまでも私たちを誘う。こんなところと思つような一角に半製品の陶器の山やそれを運ぶための函が積み上げられ、人気の少ない暗い屋内からは成形や焼成のかすかな気配が感じられる。うまくいけば、作業の手を休めた窯屋さんのんびりと声をかけてくれるかも知れない。途切れて、崩れ、また歴史を呼び戻すような古びた窯垣が現れる。そんな路地裏を歩くと、確かに千三百年とまではいかなくとも、タイムスリップの実感を得ることができるに違いない。瀬戸はいま万博を契機にした新しいまちづくりで揺れている。私はいつもいつのたが瀬戸には漸新な顔が必要だ。観光客が、若者が、ギョツというような仕掛けがある。瀬戸川に沿つたプロムナードはそんな試みで外来者を迎えて欲しい。そしてそのひとつ先に突然出現する上述のような街並みが、瀬戸のものづくりの歴史を生きた生きと伝えてくれるだろう。窯垣はその姿を瀬戸窯業史の生き証人として、そこに佇んでいるかのようにある。

観光資源としての「窯垣の小径」は瀬戸川に沿つた街並みが途絶える瀬戸公園の南側、宝泉寺の近くから著名な陶芸家、水野半次郎先生の「本業窯」のあたりまでくねくねと続く。途中に資料館もあつて瀬戸の敷瓦(本業タイル、日本製タイルの原型)の歴史を目的にしたりすることがある。小径近くの製陶所のいくつかは観光客に仕事を開放し、見学に応じてくれる。生きた陶磁歴史散歩につづつていける場所である。

木村 光伸(きむらみつしん) (経済学部教授)





# 辰年に思う

今年は十二年に一度の辰年である。辰、龍は十二支中唯一、空を飛ぶ(酉、すなわち鶏も飛ぶには飛ぶが、空を飛ぶとは言えない)動物であり、また唯一の架空の動物であるが、それが十二支に組み込まれた理由は、どうもよくわからないらしい。古今東西の「龍」を網羅した研究書、荒川紘『龍の起源』(紀伊国屋書店)の中でも、その理由にははっきりしないところもある。ともあれ、天かける龍がわれわれ東洋人にとって専らめでたい動物であるのは確かであろう。中国では漢の高祖、劉邦の例に見られるように、古来から龍は王権と結びついた権威の象徴であり、一昔前に世界を席卷した香港製カンフー映画のヒーロー達は皆ドラゴンを名乗っていた。わが国でも、神社仏閣のお飾りや、甲や刀剣などの武具の装飾、またはヤクザの倶利伽羅紋にいたるまで、龍は好んで使われるモチーフである。また端午の節句に空を舞う「鯉のぼり」は登竜門の故事にちなんだ立身出世のシンボルである。龍宮や龍神様も、龍の栄光がわたりなしの感がある。

けれども西洋における龍、ドラゴンは不幸にして、一般に東洋ほどの名誉に与っていないようである。確かに、洋の東西を問わず、ドラゴンは強者のシンボルであり、ヨーロッパにもその威厳を示す例はある。紋章や旗印に見られるドラゴンの意匠、竜騎兵、また北欧のヴァイキングは彼らの船の船首をドラゴンの頭で飾り、船全体を竜の身体に見立てた。しかし、これらの場合、戦場において敵を怯えさせる目的が主であり、ドラゴンに対する崇敬の念より、むしろ恐怖が先行している。倶利伽羅紋同様、「虎の威」ならぬ「竜の威」を借りているのだ。西洋においてドラゴンが神格化されるケースは稀である。それどころか、キリスト教におけるドラゴンに至っては、ヨハネの黙示録の例を取るまでもなく、大天使ミカエルや聖ゲオルギウスに退治される悪魔にほかならない。東洋の龍と比べれば、まさに雲泥の差、ドラゴンは対極の存在になり果している。この違いはどこから来るのか。

もとより東洋の龍も西洋のドラゴンも極めて多義的象徴であるが、敢えて極論するならば、両者の相違は背後にある東西の世界観、自然観の相違に起因するように思われる。龍もドラゴンも元来神話や伝説の中の存在であり、どっけ創世神話によく登場する。ウーヴェ・シュテッフェン『ドラゴン、反社会の怪獣』(村山雅人訳、青土社)によれば、創世神話におけるドラゴンは宇宙(コスモス)が誕生す

る以前の始原の混沌(カオス)の象徴であり、同書には世界各地の「カオス竜」の例が列挙してある。こうした「カオス竜」は英雄神によって必ず退治され、それによって秩序ある世界の創造、文化の生成、あるいは王権の成立等が暗示される。ここで注目したいのは、荒ぶる自然を象徴するドラゴンの一面である。

よく言われるように、西欧文明は精神を自然から切り離し、後者を客体化し、前者によって克服すべき対象と見なすことによって発展してきた。西欧文明にとって「カオス竜」は克服すべき自然の象徴である。また、この二元論的世界観は光と闇、善と悪とを峻別する。伝統的に西洋のドラゴンは、だいたい蜥蜴のような爬虫類の胴体を有し、蝙蝠のような翼がはえ、口や鼻から火炎や毒ガスを吐く。それは、人を喰らう恐るべき闇の存在、おぞましき悪竜の姿である。西洋におけるドラゴンは表象化された根源的な悪そのもの、同時に、この世に蔓延するあらゆる悪の象徴となる。悪竜は退治されざるをえない。

それに対して、陰陽の思想に端的に表れているように、一般に東洋の世界観は善悪の根源的な対立を認めていない。昼がやがて夜に転じ、再び昼となるように、そこでは善悪もまた交互に変わりうる。絶対善も絶対悪も存在しない世界では、すべてが神になりうる。八百万の神がまします日本には、龍神はおろか疫病神や貧乏神だって存在する。そのような世界観から生じた龍の形姿は神格化された自然に直結している。

足はあるけれども龍の長い形態は蜥蜴よりも、むしろ蛇に近い。これは古代の神話世界に普遍的に見られる大地の神としての蛇を連想させるが、龍神が湖や池、河川の畔に祀られ、雨乞いの対象となるように、龍は概して自然界の水の働きを象徴する。天に昇る龍の姿は地を潤し再び天に帰る水、雨の神聖なイメージであろう。

東洋にも竜退治の神話は確かに存在する。しかし、そこで退治される竜は、総体として神格化された自然ではなく、時に災害となって現れる部分的な自然の象徴にすぎない。神聖な自然の象徴たる龍は退治の対象にはなりえない。

とはいえ、世界史の主流は悪竜を生んだ世界観が龍の世界観を呑み込む形で進行してきたように思われる。願わくば、二十世紀最後の年が「ドラゴン」の年にならないように。



皇帝の朝服の胸元を飾る龍「紫禁城帝后生活」より

やまもと としお  
山本 淑雄(外国語学部講師)





全国初 NGU の AO 入試

入試委員長 持田 辰郎 (経済学部教授)

名古屋学院大学は、昨年、「AO」体験入学等による「入試」をはじめました。全国初の方式としてテレビ、ラジオ、新聞、週刊誌等で大評判になりましたので、みなさまもお聞きおよびかと思えます。

「AO入試」の導入は、私たちの大学だけではありません。ペーパーテストによる一般入試、内申書による推薦入試のいずれでもなく、大学がいそいで丁寧に本人の適性を見極める「第三の方式」として多くの大学が試みはじめています。ただ、他の大学では書類と面接が中心なのにたいし、本学は「4日間の体験入学」という方式をとりました。すなわち、夏休みの4日間、実際に授業をおこない、そのなかで基礎的な表現力や学習意欲等々を見て、学生として適切かどうかを判断するものであり、このようなり方が「全国初」なのです。また、この入試は、単に大学側が選ぶだけではありません。実際の授業を通じて、名古屋学院大学や各学部学科を理解し、納得して入



AO入試ガイダンス

学して欲しかったわけです。

このような入試を導入した最大の理由は、従来のペーパーテストを主軸とした入試に限界を感じたからにほかなりません。実は、各種の入試データと入学後の成績の相関関係を調べてみたのですが、そこでも、知識量より学習意欲、大学入学に際しての気持ちの方がはるかに大きな要因であるという結果がでました。そして、入試とは「何なのか」といつことを考えてみました。入試とは、結局のところ大学の授業についていけるかどうかを判断するものなのです。それなら実際に試してみるのが一番という結論に達したわけです。ですから、今の常識では、変な入試かも知れませんが、入試の本質を考えれば本来の姿だと思っています。

なにぶん全国の大学ではじめてのことですから、不安半分で踏み切ったのですが、結果は大成功だったと思います。まず何より、240名という予想をはるかに上回る申込をいただくことになりました。出身高校も全国にまたがっています。その上、4日間の授業にきわめて熱心にとりこんでくれました。入試という緊張感があつたとはいえ、私たち教員があらわれるくらいでした。そして、参加者の多くが勉強の楽しさがわかった」と言ってくれました。本学のめざす「学ぶ喜び」が理解されたと思います。

その結果、予定より多い133名を事実上の合格である「適切」とすることができ、そのほとんどが入学手続きをすまってくれました。その他にも推薦入試で合格した参加者も沢山います。これだけ多数の、きわめて学習意欲が高く、そのうえ私たちの大学を理解した新入生が入ってくるのですから、大学全体の雰囲気を変えるほどの力があると思います。

もっとも、この入試制度の本当の成否は大学全

体の今後の改革にかかっているといつべきでしょう。「学ぶ喜びを感じられる大学」であることを約束したわけですから、教職員は全力をかたむけてその約束をはたさねばなりません。それができたときに本当に成功したと言えるでしょう。

入試部としては、今後いそいでAO入試を拡大していく予定です。一部の高校から、どう指導してよいかわからないという声が聞かれるのですが、昨年の経験をもとに丁寧に説明すれば、理解はいただけると思います。これからの入試は単に偏差値を基準としたものではなく、なるといふ。入学する側も大学の本来の姿をじっくり見極めて選ぶことになるでしょう。大学側も入学後の勉強という観点からいそいで丁寧に適性を判断することになると思います。それなら、実際に試してからが一番でしょう。

最後に、この入試制度についてご注意いただきたいことを述べさせていただきます。まず何より、時期が非常に早いということです。最初の「体験入学」を夏休み(本年は8月19日)からの4日間を予定(たにおこないます)ので、その申込は8月上旬です。ただし「この段階では申込書と写真だけではいけません。体験してから決めて欲しい」といふことですから、この時は名古屋学院大学第二志望でなくてもかまいません。いわゆる現役である必要もありません。また、形式的には二段階であることにもご注意ください。体験入学後、大学から「適切」と通知された方は、10月の「面接試験」に来ていただくこととなります。これが正式の入試ですが、その後「合格後指導」があります。3回の課題と、それに関する2回の登校を予定しています(ただし、遠隔地の方や高校の学校行事のある方は、登校を免除します)。



# Seminar訪問 28

## 今仁ゼミ

今仁 生美

(外国語学部助教授)

今仁ゼミのメンバーは、卒論を学術論文として仕上げるために、徹底的にじじかれる。これが、今仁ゼミの特徴です。学生の間でも、今仁ゼミは厳しくて、知られていません。」「生のうちでも絶対こんな考えのことはないと思う」とか、バイトして、論文のことは考えないだとか、もつろさず、気が狂いそうだとか、そういう言葉をよく学生から聞きます。しかし、人間というのは面白いもので、卒論を書き終わると充実していたと顔を輝かせて言ってくれるので、うちも嬉しくなります。

4年の春には、みんなでゼミ合宿を行います。通常、ゼミ合宿は「遊び」ですが、今仁ゼミは「ゼミ合宿＝論文の中間発表」です。発表が終われば、「終わらねえ」といって大騒ぎとなります。クラブが終わったあと、もうその辺りに寝ころんで中間発表を続行した年もありました。

今仁は、ゼミ合宿では財布を忘れる、ゼミを寝過ごしてしまっ、などもやってしまつてますが、学生は強くて、「先生がやりそななことだ。ゼミせん驚かない」と言われてしまう有様です。しかし、こんな感じで、家族のようになつていくのは嬉しいことだし、じも思っています。



## シリーズ Circle 短信

### 体育会 ワンダーフォーゲル部

ワンダーフォーゲル部というと、大勢の人が登山のための部活だと思つていようです。しかし、登山のための部活なら、山岳部と名乗っているところが多い。ではワンダーフォーゲル部とは何か？ 実は「ワンダーフォーゲル」はドイツ語で、「旅鳥」を意味しています。



名の通り、北アルプスをはじめとして、はるか遠い南の島など、あらゆる環境の中で、冬による長期滞在をしています。私達もこの年間、いろいろな所へ行き、いろいろなものを見て、いろいろな発見をしてきました。特に、白山の雪渓で7月に雪合戦をしたこと、みんなで励まし合いながら槍ヶ岳を登頂したことは筆舌に尽くせないほど美しい思い出です。

そして、気がつけば、自分が体力、精神力ともにより強くなつていて、自分の限界に挑戦したという達成感、長期合宿を通じて今まで知らなかった部員の本質を知ること、強い仲間意識を生み出すなど、若いうちにしておいたほうがいい経験が本当にできる部だと私は痛感しました。しかし、単に合宿ばかりに力を注いでいるわけではありません。私達は、大学行事の目玉ともいふべき大学祭に、火舞い、火文字、それに「ファイヤー」という特大な催しもしています。毎年、大学祭で何百人もの人たちがワンダー部員の作ったファイヤーや火舞い、

それに火文字、ロッド岳に圧倒されています。そのついで、東海地区のいくつかの大学のワンダーフォーゲル部によつて構成されている連盟委員会に参加しているので、夏は全国の山仲間とキャンプをしたり、山で他大学のワンダー部員と合宿の話題交換をしたり、山の話をするなど、町にいては決してできないことができます。さあ、その冒険家を目指しているあなた、迷わずワンダーフォーゲル部に来てください。かの有名な植村直己さんの冒険生活も、ワンダーから始まりました。冒険家を目指していませんが、もっと精神力を鍛えたい人、自然愛好家、何となくやってみて見たい人、すぐに部室の門をたたいてください。私達が暖かく迎えます。そして、ワンダー仲間達と旅立ちましょう。

(外国語学部1年 植野めぐみ)



「情報教育」から「教育の情報化」へ

— 大学の情報発信とは — 児島 完一 (経済学部 助教授)



リニューアル中の本学ホームページ

就職シーズンともなると、インターネットで企業へアクセスしようと、パソコン端末室には学生が溢れんばかりの状況です。求人、求職といった労働市場ではインターネットが効率的に機能するため、今では一般的に就職活動状況の風景となりました。インターネットへのアクセスはパソコンを中心とした形態から、携帯電話やゲーム機などへ移ってゆくと、誰でも日常的に利用できる身近な道具となります。

このような時代では、特色ある独自の情報、誰に対してどのような情報を出すかが問われます。幸い知的財産を有する大学は、学内外に多くの価値ある情報を発信できます。また、キリスト教主義大学として、多くの卒業生を有し、伝統産業の街にあり万博会場に近い大学としても発信可能な内容もあります。

すでに、時代は「情報教育」から「教育の情報化」の局面に入っています。学生に講義時間だけで教えるだけでなく、主体的に学内ネットワークを利用させることが望まれます。そのためには、彼らにとって有用な情報、例えば、電子掲示板、書類のオンライン配布などを積極的に提供することが重要です。(携帯電話から休講情報が獲られる大学もあります。また、資格試験や基礎知識の確認などの自学自習システムなど便利ツールも考えられます。)

また、講義内容をストックすればいつでもどこからでも講義の一部に触れられるので、受講者だけでなく、履修前に参考にする学生にも便利です。このようにホームページは、ノウハウやナレッジの蓄積に向いているので、真のシラバスの実現可能性を孕んでいます。

また、データの再利用、検索する場合には強力です。さらに、ネットワーク上では立地条件などは無関係です。遠隔授業、ディスタンスラーニング、留学先からの指導など大きな可能性が見えてくるはずです。大学として学内から学外へ、地域から世界へと情報発信できる独自のコンテンツ作りが、今一番必要です。学生、教職員だけでなく、卒業生、父母会、地域などを繋ぐ共有情報こそ、本当の意味の情報基盤整備なのかもしれません。

教育振興資金 募金の御礼とご報告

標記の募金につきまして、皆様には、ご支援・ご協力を賜り心から厚く御礼申し上げます。  
1999年9月1日から2000年2月10日までにご寄付いただきました方につきまして、感謝をもってご報告申し上げます。  
今後とも本学へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

( 学校法人 名古屋学院大学理事長 名古屋学院大学教育振興資金募金委員長 内山 道明 )

寄付者ご芳名( 順不同・敬称は略させていただきます )

父母会関係																
浅井 利次	稲田 成二	大野 繁	武則 健	喜多 切	直人 康	柴田 嶋	吉則 行	高宮 本	弘 伸	永坂 松	信 八	古川 保	志 優	皆川 宮	政 逸	上村 幸
尾 一郎	成 圭	大 武	則 健	多 切	人 康	田 嶋	則 行	宮 本	伸 八	坂 松	八 八	川 保	優 則	川 宮	逸 隆	村 幸
朝倉 時男	津 和	野 大	大 健	切 九	康 保	林 清	行 雅	本 竹	正 正	瀬 西	郎 康	保 細	則 保	崎 村	則 量	
安倍 昭宣	岩 幸	大 益	大 益	里 小	二 雅	水 杉	明 泰	中 文	野 野	野 一	彦 義	堀 之	精 茂	上 村	祥 和	
粟倉 又人	神 康	岡 欣	岡 欣	小 島	貢 貢	野 野	樹 樹	田 中	野 野	一 男	明 明	内 内	茂 茂	松 松		
安藤 治	宇高 英	岡 延	夫 史	今 野	泰 孝	杉 野	二 郎	田 邊	博 近	濱 島	正 紀	前 川	利 美	八 木	弘 弘	
安藤 孝	宇野 義	加 敏	史 敏	野 近	功 久	野 鈴	勝 久	近 田	慶 司	西 幸	彦 彦	前 隆	隆 一	安 安	弘 弘	
石原 征	宇藤 大	加 弘	敏 弘	近 弘	和 充	木 須	久 昭	塚 本	勝 利	林 静	男 男	前 光	光 良	井 井	自 自	
伊藤 秋	大岩 一	加 上	弘 義	藤 小	朗 稔	山 石	治 郎	土 屋	俊 人	日 高	洋 一	前 英	治 正	山 山	賢 賢	
伊藤 伊藤	澤 十一	上 倉	上 倉	小 林	稔 稔	仙 石	治 郎	辻 本	俊 人	忠 生	生 生	岡 正	樹 樹	下 下	二 二	
井田 準	大島 一	上 昌	弘 二	齋 純	生 幸	高 高	正 秀	出 井	宏 忠	依 藤	知 己	真 鍋	澄 昌	山 山	作 作	
市原 恒	大西 敏	川 合	二 章	藤 佐	久 幸	高 高	保 男	出 富	保 行	平 野	紳 一	三 國	平 博	田 田	峻 尚	
井野 勲	大坪 和	河 合	夫 夫	坂 本	一 雄	高 高	米 二	出 永	良 造	平 林	英 一	水 谷	水 道	脇 脇	雄 雄	
井上 義	大野 勝	河 合	宏 三	坂 本	幸 正	高 高	雅 正	中 野	野 良	福 谷	正 宏	水 野	水 謙	渡 渡	幸 幸	
稲垣 寛	大野 邦	河 田	三 三	澤 井	明 明	高 高	松 松	中 野	野 良	福 谷	正 宏	水 野	水 謙	渡 渡	幸 幸	
																136件 1,900,000円

卒業生	その他	教職員	役員・募金委員
安藤 之人	医療法人 清慈会 (株)ナガワビルクリナー(株)	飯田 重美	増田 喜治
板倉 淳	山本 茂一	伊藤 真理子	三浦 三井
伊藤 博	若井 貴視	大倉 晴男	喜 哲
伊藤 博		梶田 建夫	佐藤 自
占部 直己		黄 名時	清水 克
笠井 修		スタインバーグ 美穂	名城 邦夫
			藤田 行政
	26件 294,000円	3件 200,000円	15件 898,340円
			4件 600,000円





# 1999 本学の動き

— この1年 —

- 4月 入学式(4/5) 前期授業開始(4/13)
- 5月 瀬戸市民大学講座(5/14~6/11) 宗教講演会(敬和学園高等学校校長 榎本栄次氏)(5/27)
- 6月 中国語スピーチコンテスト(6/2) 就職のためのインターネット講座(6/2~30) 宗教講演会(小倉バプテスト教会牧師 谷本仰氏)(6/4) 公開講演会(トヨタ大学教授 Alister Cumming氏)(6/4) チャペルコンサート(桑形亜樹子・福田善亮 両氏)(6/5) 宗教講演会(名古屋学院院長 西村清氏)(6/9) ノースカロライナ大学ウィルミントン校より 研修団来学(6/29~7/28) 父母会総会(6/26) 学生大会(6/30) 商学部経営者講演講座(株)ババジャー社長 夏秋亨氏(6/30)
- 7月 商学部企業見学会(トヨタ自動車株)(7/7) 国際交流センター公開講演会(ノースカロライナ大学ウィルミントン校日本語専任講師 加納洋子氏)(7/7) 前期末試験(7/19~30) オープンキャンパス(7/24) 公開講演会・英語教育セミナー(ICU教授 Suzanne Quay氏)(7/26~30)
- 8月 親子陶芸教室(8/8) オープンキャンパス(8/20) AO体験入学(8/21~24) 父母懇談会(岡山)(8/21) 父母懇談会(浜松・金沢)(8/28)
- 9月 父母懇談会(名古屋)(9/4) 高校生英語論文・スピーチコンテスト(9/15) 大学院第1期入試(9/23・25) 父母懇談会(本学)(9/25) 後期授業開始(9/27) シティカレッジ(9/27~12/8)
- 10月 手話講演会(愛知のろう教育を考える会事務局長 伊藤照夫氏)(10/6) オルガンコンサート(ギ・ボヴェ氏)(10/9) AO入試 編入学試験(1次)(10/23) 大学祭(10/30~11/3)
- 11月 陶芸館まつり(11/3) 宗教講演会(ビルマに学会と図書室を代表 川上汎氏)(11/8) 商学部企業見学会(アサヒビール名古屋工場)(11/10) 英語スピーチコンテスト(11/10) 外国語学部海外事情講演会(朝日新聞社東京本社学芸部記者 山本健一氏)(11/10) 推薦入試(11/13・20) 万博シンポジウム(本学万博プロジェクト)(11/15) ショーター助教授追悼式(11/24)
- 12月 学生大会(12/1) 商学部経営者講演会(株)ポッカコーポレーション代表取締役会長 谷田利景氏(12/8) 国際交流セミナー(イリノイ州立大学講師 Mohomodou Houssouba氏)(12/15) 外国語教育研究センター講演会(京大人文科学研究所教授 池田巧氏)(12/16) 父母会寄贈彫刻モニュメント設置(12/17) キリスト降誕祭・市民クリスマス礼拝(12/25)
- 1月 後期(学年末)試験(1/17~28) 公開講演会(上智大学名誉教授 クロード・ロベルジュ氏)(1/29)
- 2月 一般入試・前期(2/1・2・3・4) 編入学試験(2次)(2/2) 大学院第1期入試(2/12・19) 一般入試・後期(2/27)
- 3月 卒業式(3/15) 第9回英語集中講座(ICU講師 Patricia Galien氏)(3/27~31)

# 1999年度課外活動報告

1999年度に課外活動で著しい活動成果をあげたクラブと個人に対して学生部長表彰が行われました。特別表彰を含めて団体では9クラブ、個人では38名の学生が表彰を受けました。

団体としてアーチェリー部、ボクシング部、スキー部、馬術部が98年度に続いて連続受賞したのをはじめ、個人戦が中心の空手道部、硬式テニス部、柔道部、少林寺拳法部等から複数の個人表彰選手が出るなど、表彰対象となる活動成績を残すクラブが固定化している傾向が多少あるようです。今回新たに表彰対象の仲間入りをしたクラブ・個人を含めて今後の更なる活躍を期待するとともに、それ以外のクラブの新年度新たな挑戦にも期待します。

98年度は文化会からの表彰がありましたが、99年度は英語ドラマフェスティバルで入賞したE.S.S.と大学祭でワンダーフォーゲル部(特別表彰)と共に活躍した放送文化研究会が表彰されました。またプロトランベッターとして大学祭を盛り上げた英米語学科の中村好江さんが特別表彰されました。

## ● 課外活動成績優秀者 ● 学生部長表彰

団体表彰		個人表彰	
★アーチェリー部 東海学生アーチェリーリーグ戦 男子 3位	★バドミントン部 東海大学バドミントン選手権大会 3位	★アーチェリー部 東海学生アーチェリー個人選手権大会 男子 2位 梅本浩平(経済2年)	★スキー部 中部日本学生スキー選手権大会 男子クロスカントリー20km 1位 中里芳弘(経済4年)
★ウェイトトレーニング部 中部学生ボディビル選手権大会 3位	★馬術部 中部学生自馬競技大会 中障害飛越競技二回走行 優勝	★空手道部 東海地区大学空手道選手権大会 男子組手中量級 3位 細矢修一(経済1年)	男子回転 1位 長澤邦良(商2年)
★剣道部 東海女子学生剣道優勝大会 3位	★E.S.S. Nagoya Intercollegiate the 39th English Drama Festival 3位	★ボクシング部 中部学生ボクシング選手権大会 優勝	女子リレー2km 1位 船橋味加(経済4年)
★スキー部 中部日本学生スキー選手権大会 男子総合 優勝		★柔道部 全日本ジュニア柔道体別選手権大会 愛知県予選 81kg級 3位 鈴木弘隆(経済1年)	花井香宗(経済3年) 宮本実矢(経済3年)
★女子部 中部日本学生スキー選手権大会 女子総合 優勝		★準硬式野球部 東海地区大学準硬式野球春季リーグ戦 ベストナイン外野手賞 金森秀爾(経済3年)	東海学生基礎スキー選手権大会 女子新人戦 1位 西尾さゆり(経済2年)

個人表彰		特別表彰	
★アーチェリー部 東海学生アーチェリー個人選手権大会 男子 2位 梅本浩平(経済2年)	★スキー部 中部日本学生スキー選手権大会 男子クロスカントリー20km 1位 中里芳弘(経済4年)	★団体表彰 ワンダーフォーゲル部 放送文化研究会	★個人表彰 中村好江(外国語3年)
★空手道部 東海地区大学空手道選手権大会 男子組手中量級 3位 細矢修一(経済1年)	男子回転 1位 長澤邦良(商2年)		
★柔道部 全日本ジュニア柔道体別選手権大会 愛知県予選 81kg級 3位 鈴木弘隆(経済1年)	女子リレー2km 1位 船橋味加(経済4年)		
★準硬式野球部 東海地区大学準硬式野球春季リーグ戦 ベストナイン外野手賞 金森秀爾(経済3年)	花井香宗(経済3年) 宮本実矢(経済3年)		
★卓球部 東海学生卓球大会 女子シングルス 2位 藤浪玲奈(経済1年)	東海学生基礎スキー選手権大会 女子新人戦 1位 西尾さゆり(経済2年)		
★ハンドボール部 東海学生春季リーグ戦 得点王 竹田 貢(商4年)	男子個人戦 1位 木下光仁(経済4年)		
★小林寺拳法部 小林拳法東海学生大会 運用法選考会 三段の部 優秀拳士 木村洋介(経済4年)	制限滑降 3位 吉田祐一(経済3年)		
二段軽量級 優秀拳士 根木邦典(外国語3年)	女子パラレルターン 2位 河島知果(経済2年)		
二段重量級 優秀拳士 藤貫俊乃介(商4年)	小回り急斜面 1位 田上 勝(経済4年)		
女子の部 優秀拳士 神谷宏之(経済4年)	★馬術部 トライアル競技大会 中障害飛越競技M級C 1位 森 智行(商4年)		
	個人戦 中障害飛越競技 2位 中嶋孝志(商2年)		
	総合馬術競技 1位 山田喜洋(経済3年)		
	愛知学生馬術競技会 障害飛越競技 1位 山崎 勲(経済4年)		
	3位 茶原崇史(商4年)		
	★ボクシング部 中部学生ボクシング選手権大会 フライ級 1位 大嶋康之(経済2年)		
	バンタム級 1位 小林正明(経済3年)		
	ライトフライ級 3位 小島 司(外国語2年)		
	ライト級 3位 山田拓哉(商4年)		
	ウェルター級 3位 穴井広祐(経済1年)		
	中部学生ボクシング新人戦大会 バンタム級 優勝 井戸大輔(経済1年)		

## 学長に木村光伸教授

教学役職者紹介(2000年4月1日付)

- 学長……………木村光伸
- 経済学部長……………小林甲一
- 商学部長……………小嶋博
- 外国語学部長……………清水克正
- 経済経営研究科長……………可児島俊雄
- 外国語学研究科長……………清水克正
- 留学生別科長……………坪田暢允
- 宗教部長……………葛井義憲(経済学部)
- 教務部長……………小川文雄(商学部)
- 学生部長……………早川厚(経済学部)
- 就職部長……………梶田建夫(商学部)
- 入試部長……………持田辰郎(経済学部)
- 図書館長……………小野経男(外国語学部)
- 総合研究所長……………治村輝夫(外国語学部)
- 外国語教育センター長……………W.J.ハロウズキ(外国語学部)
- 情報教育センター長……………皆川芳輝(商学部)
- 国際交流センター長……………坪田暢允(経済学部)

## 学長表彰で10名が受賞

1999年度卒業証書・学位記授与式が3月15日(水)に挙行されましたが、卒業生で成績優秀の次の10名のみなさんが晴れの「学長表彰」を受賞しました。(敬称略)

- 経済学部……………青木和也、樋田健一郎、森芳美
- 商学部……………秋田大策、岩松洋一郎、鈴木宏美
- 外国語学部……………成瀬紗也香、吉田貴美子
- 英米語学科……………駒月孝憲、木本かおり
- 中国語学科……………

なお、今年度卒業生・修了者は左記のとおりです。

学部	人数
経済学部	491名
商学部	351名
外国語学部	
英米語学科	190名
中国語学科	55名
大学院	
経済経営研究科	
経済学専攻	9名
経営政策専攻	62名
外国語学研究科	
英語学専攻	7名
中国語学専攻	4名
留学生別科	7名

## 中村至朗教授が最終講義

3月末日を以って定年退職を迎えられる中村至朗教授(経済学部)の最終講義が1月11日(火)にC教室で行われ、多くの学生や教職員が受講しました。



中村至朗先生は、1964年4月、名古屋学院大学開学と同時に就任され、以来36年の長きにわたり経済原論などを担当されたほか、大学院教授としても学生の指導にあたりました。このほか、経済学部長をはじめとして、学生部長、大学院経済学専攻主任としても大学行政に深く関わられ、大学発展に貢献され、これに対し本学の名誉教授称号が授与されます。

このほか、最終講義は開講されませんでした。末重正行教授(経済学部)も定年を迎えられます。両先生のご尽力に感謝し、今後のご健勝をお祈りいたします。

## バリアフリー工事がすすんでいます

春季休暇中を利用して、バリアフリー工事が行われています。本学の立地は起伏に富み、景観的にすばらしいキャンパスですが、車椅子利用など身体に障害のある学生のみならず、スリッパな移動ができる環境とはいえません。弱者にやさしさを求める時代背景は、こうした施設改善は社会的要請ともなっています。

本学はすでに、新しい校舎などにはその対応を行っています。既設の合同教室、六台館などについても早期の改善が望まれていたものです。

主要工事は次のとおりです。

- 麦粒苑(合同教室)へのスロープ設置
- 図書館2階身障者用トイレ設置
- 図書館1階エレベーター前スロープ設置







## Information

### 2000年4月～5月行事予定

#### 4月

- 1日(土) 大学院—開講式・ガイダンス
- 3日(月) 入学式  
 新生—学生生活オリエンテーション  
 学生証交付・履修書類配布
- 4日(火) 新生—教務ガイダンス
- 5日(水) 新生—課外活動オリエンテーション
- 6日(木) 新生—教務ガイダンス  
 健康診断・学生証用写真撮影  
 (経済)  
 クラスオリエンテーション  
 (商・外国語)
- 7日(金) 新生—健康診断・学生証用写真撮影  
 (商・外国語)  
 クラスオリエンテーション  
 (経済)  
 履修登録(10日まで)  
 大学院—前期授業開始
- 11日(火) 春学期授業開始

#### 5月

- 1日(月) 臨時休業
- 2日(火) 臨時休業

#### 履修書類配布(401～404教室)

- 3/30(木) 03生 10:00～11:00  
 02生 13:30～14:30  
 3/31(金) 01生 10:00～11:00  
 配布後にガイダンスを行います

#### 履修登録(9:30～16:30 401教室)

- 3/31(金) }  
 4/ 4(火) } 03・02・01生  
 4/ 5(水) }  
 4/ 6(木) }  
 4/ 7(金) }  
 4/10(月) } 04・03・02・01生  
 3/31(金)は13:00から

講座名	開講期間	主な開講時限
第2種情報処理技術者試験	5月～3月	水 3・4時限
初級システムアミニストラータ	5月～10月	火・木 5時限
秘書検定2級対策	5月～6月	水 3・4時限
実用英語検定準1級対策	5月～6月	水 3・4時限
実用英語検定2級対策	5月～6月	水 3・4時限
TOEIC試験対策	5月～6月	水 3・4時限
日商簿記2級検定試験	5月～11月	水 3・4時限
宅地建物取引主任者講座	5月～10月	水 3・4時限
一般旅行業務取扱主任者	5月～9月	月・木 5時限
ビジネス能力検定3級対策講座	5月～6月	水 3・4時限
ファイナンシャルプランナー入門講座	5月～7月	未定

各種資格取得を希望する学生のみならずの便宜をはかるため、キャンパス内で「資格講座」を開講しています。2000年度開講の講座は次のとおりです。

### 2000年度「資格講座」の開講について

日程	開催地	会場
8月26日(土)	浜松	オークラアクトシティホテル浜松
	四日市	四日市都ホテル
9月2日(土)	金沢	金沢都ホテル
	岐阜	岐阜キャッスルホテル
9月9日(土)	本学	
9月16日(土) (2・3年生対象)	名古屋	東京第一ホテル錦

大学がそれぞれの都市に向き、ご父母のみならずと直接ふれあう「父母懇談会」が今年も左記のように予定されています。学生生活のこと、成績のこと、就職のこと等について学長、学部長のほか教員や担当者が説明するとともに、ご父母から相談やご意見をうかがう貴重な機会となっております。毎年多くのご父母の出席を得ております。詳細につきましては、6月25日案内する予定です。

### 父母懇談会日程決まる

### 愛知県経常費補助金交付

愛知県から平成11年度(1999年度)私立学校経常費補助金として713,000円が交付されました。

この補助金は、女子学生用フィットネス器具ノ2種(女子更衣室内設置)の教育研究用機器備品購入費の一部に充てました。

### キャンパスグッズ



▲「JRオレンジカード1000」  
 学内MARUZENで発売中

### 履修登録日程



表紙写真 / 彫刻「未来に向けて」

小池郁男(愛知県立芸術大学)制作

1999年度父母会卒業記念事業として、東玄関前に設置

本文2ページ参照

学校法人 **名古屋学院大学**

発行日 2000年3月21日

編集 名古屋学院大学 広報(UI)委員会

発行者 名古屋学院大学 学長室広報課 愛知県瀬戸市上品野町1350  
〒480-1298 TEL 0561-42-0317(広報課) ISSN 0915-8901

**本学の情報はホームページでもご覧いただけます**

<http://www.ngu.ac.jp/>